

2018年度 自己評価まとめ

2018年度の課題

- | | |
|------------------------------------|-----------------------|
| 1・一人ひとりの子どもをより丁寧な保育
2・遊びの充実に向けて | 3・研修の充実
4・勤務体制の組織化 |
|------------------------------------|-----------------------|

今年度の課題に沿って1年を振り返り、以下の項目ごとにA・B・C・Dの4段階で自己評価を行った。
A・・・よく出来た B・・・まあまあ出来た C・・・あまり出来なかった D・・・全く出来なかった

1、一人ひとりの子どもをより丁寧な保育

一人ひとりを集団の中の一員として捉えるのではなく、個性のある一人ひとりの集まりが集団であるという考え方を基本とし、子ども達の心に寄り添い、やりたい気持ちを実現できるような保育を大切に過ごしてきた。自主活動において、子ども達が思いを周りにしっかりと伝えたり、友だち同士でやりたい遊びを実現していく姿に、その成果を感じている。

また今年度は、特に異年齢の交流を意識した保育を充実させる事が出来た。兄弟姉妹の関わりがきっかけとなり、周りの子どもたちも自主活動時に交じり合っ楽しんで、年長児が、下のクラスの部屋へ足を運び、手伝おうとする姿も多くあった。その都度やりたい気持ちを重視して、手伝いをする機会を意識的に作ったり、楽しんでいる歌や踊りを他クラスに披露しに行く等、これまで以上に異年齢交流が日常的に行えるように工夫をした。特に小さい年齢の子が兄弟を頼って一緒にしようとする時には、その気持ちが叶えられるように配慮し、そのクラスで過ごす事もあった。子ども同士の関係の深まりの中から、互いに影響を受け合い多くの成長を感じる事が出来た。保護者の声からも、保育の理念が伝わっていることが確認でき嬉しく思う。

また今年度は、特に幼児部分の教師の配置を工夫し、預かり保育時間にクラスの担任も保育に入るようにした。これにより、午前中からの遊びの流れを意識して過ごせて充実した活動になったり、一日通しての子ども達の心と体の状態の把握がしやすくなった。しかし、保育に入る教師同士で子ども達の様子の情報交換を密に行う時間が多く取れなかった事が反省点である。次年度は、ミーティングの頻度や内容を見直し、一人ひとりの子ども達の育ちについて深められる時間を意識的に作っていききたい。

		園としての 評価	A
保育 教諭	・一人ひとりの子どもと、心が通うような関わりを持ち信頼関係を築けるように努めた。	A: 15/22 B: 7/22 C: 0/22 D: 0/22	
	・それぞれの子ども達の家庭状況、健康状態などを把握し、一人ひとりに合った対応や援助を行うことが出来た。	A: 8/22 B: 13/22 C: 1/22 D: 0/22	
	・教育課程をもとに、子ども達の成長発達に合わせて保育の計画を立て、実施することが出来た。	A: 3/22 B: 11/22 C: 8/22 D: 0/22	
	・他の保育教諭と情報交換をする等、連携をとりながら、一人ひとりの子ども理解や成長を捉える為に工夫し、努めることが出来た。	A: 8/22 B: 13/22 C: 1/22 D: 0/22	
	・保護者と、子ども達の様子や成長について話し合ったり、連絡帳で伝え合う等、情報共有に努めた。	A: 10/22 B: 9/22 C: 2/22 D: 1/22	
上記 以外の 職員	・園児との関わりを積極的に持つことができた。	A: 2/9 B: 7/9 C: 0/9 D: 0/9	
	・職務上知りえたプライバシーに関する情報等の秘密を守ることを意識して行うことが出来た。	A: 7/9 B: 2/9 C: 0/9 D: 0/9	
保護 者の 声 (連 絡 帳 よ り 抜 粋)	・日々先生達からの声掛けやそっと背中を押された事で子育てを乗り越えてこられたと思います。親だけでは子どもときちんと向き合えていなかったと思います。子どもにトラブルがあったとき、子どもに困難への向き合わせ方、先生方からの声掛けで学ばせて頂きました。		
	・すずめ組の子どもが、兄のいる年長組に行きたがっている時に無理に引き離さずに居てくれた事で安心して伸び伸び過ごす事が出来たと思います。		
	・明星の子達が、たまご組の弟に話しかける話し方が、愛情たっぷりで、日頃の先生たちの話し方が子ども達から伝わってきます。		
	・皆で話し合っ考えるスタイルが好きです。自分の意見をちゃんと言えると嬉しいです。		
	・子ども自身が園での事を自分の言葉で一生懸命伝えてくれるようになり、園の事が色々わかるようになりました。		
・サッカーゴールの中に子どもが一人で入っており、出られなくなっていた。見守り体制はどうなっているのか心配になった。			

2、遊びの充実に向けて

子どもの興味関心に合わせて必要な援助を行い、遊びの充実に向けて様々な工夫を行う事が出来た。特に、一部の子ども達の遊びが、園児皆で楽しめる活動に発展したり、得意なことを発表する場を設定し互いに影響を受け合ったりと、子ども達のやりたい気持ちを実現し、満足感を得られるような援助が行えたと感じている。運動会や発表会の時期には、行事としての捉えではなく、日々の遊びの延長である事を教師達がしっかりと意識して日々の活動を行えた事で、子ども達が心から楽しんで活動に参加していた。自主活動時にも互いに見せ合ったり、混ざり合っ一緒にったりと繰り返し楽しむ様子が沢山見られた。保育環境の見直しについては、教師達で協力し合い、手作りのおもちゃを製作し、遊び方や提供の仕方等を考えて行う事ができた。子どもの様子を見ながら、片付け方・遊び方の問題点等も振り返り、改善しながら取り組んだ。様々な観点から、遊びの充実に向けて試行錯誤してきたが、一人ひとりの自己評価でBやCが多かったことから、それぞれの教師は、子どもの発達に目を向けることや、教師側から提案したり、教師同士で連携して遊びを発展させていく事に対して、もっと努力できたのではと感じていることがわかった。来年度は、これまで以上に、子どもの遊びの姿を共有したり、どのような環境が今の子ども達に必要なのか話し合う機会を多く作り、チームで積極的に遊びの充実に向けて取り組めるようにしていきたい。

		園としての評価	A
保育教諭	・園児が、安全に遊ぶことが出来るように、危険に配慮し、園内環境を整えていくことが出来た。	A:7/22 B:12/22 C:3/22 D:0/22	
	・子ども達がどこでどのような遊びをしているのか、教師同士で情報共有しながら把握していくことが出来た。	A:8/22 B:11/22 C:3/22 D:0/22	
	・子どもの成長発達を捉え、その時期に必要な経験や遊びが出来るように、遊びの提案をしたり環境を作ることができた。	A:4/22 B:9/22 C:9/22 D:0/22	
	・新しい遊びが生まれたり、遊びがより深まるように、子どもの興味関心に添って工夫し、環境を設定することが出来た。	A:4/22 B:11/22 C:7/22 D:0/22	
	・自主的に勉強したり、調べたり、考えたりしながら自分なりに、遊びの充実に向けて努力することが出来た。	A:4/22 B:10/22 C:8/22 D:0/22	
上記以外の職員	・保育教諭との連携を図りながら、子ども達にとってより良い環境を目指して取り組むことが出来た。	A:1/9 B:6/9 C:2/9 D:0/9	
保護者の声 (連絡帳より抜粋)	・好きな事を沢山やらせてくれたり、編み物ブームがきたら毛糸を用意してくれたり、カルタやコマ、なわとび、あやとり等、ある日突然できる事が増えてびっくりでした。		
	・朝からイキイキと元気に走り回って遊びに向かっている姿を見て、安心しています。		

3、研修の充実

主に、全職員研修(2回)、月毎の聖書研究(10回)や学期毎の保育に関する研修(3回)、1,2年目教師の新任研修(3回)等、今年度は合計18回の園内研修を行うことが出来た。また、外部研修は、様々な団体主催のものに数名ずつ参加することが出来、充実した学びを得る事が出来た。一人ひとりの自己評価を見ると、正職は、Aが多いのに比べパート職員はDや無記述が多い。正職は、園内、外部共に、多くの研修機会が与えられ、学ぶ意欲を持って参加できており、それぞれ報告書の作成の他に、会話の中で学んだ事を知らせ合う等して、保育に活かそうという姿勢が感じられた。一方でパート職員は研修参加の機会があまり取れなかったことが反省点である。来年度は、パート職員も参加しやすい内容の外部研修を紹介したり、園内研修に正職と共に参加できる機会を作るなどの工夫をして、保育の学びを深め、更に意欲的に保育に向かう事が出来るようにしていきたい。

		園としての評価	B
保育教諭	・園内研修では、テーマに沿って深く学ぼうという姿勢で参加することが出来た。	A:13/22 B:2/22 C:0/22 D:4/22 無:3/22	
	・外部研修では、学ぶ意欲を持って、積極的に参加することが出来た。	A:13/22 B:2/22 C:0/22 D:4/22 無:3/22	
	・研修で学んだ事を、振り返り、他の教師にしっかりと伝えるように意識して報告書を作成することが出来た。	A:7/22 B:6/22 C:2/22 D:0/22	

4、勤務体制の組織化

今年度は業務内容を分掌し一人ひとりの意識改革に取り組んだ。行事や保育に関する業務については責任もってそれぞれの担当者が中心になって行えたが、目立たない業務については後回しになり滞っている事もあった。それぞれの業務について反省をし、内容も見直して来年度は更に円滑に行えるようにしていきたい。特に、園内環境の整備等は、担当者に委ねるのではなく、それぞれが意識をもって、気がついた事を発信し、担当者を中心にして皆で取り組む姿勢を大切にしていきたい。勤務時間帯については、幼児部分の教師の勤務形態を見直してシフト勤務にした事で、保育時間の長い子どもや保護者への対応を円滑に行えるようになった。しかし、年間通して考えると、時期による保育形態の変化に合わせて、必要な時間帯に過不足なく勤務できるように工夫が必要である事がわかった。来年度は細かい調整をしつつ行っていきたい。

		園としての評価	B
保育教諭	・自分のやるべき仕事は何か、常に意識して取り組むことが出来た。	A: 8/22 B: 14/22 C: 0/22 D: 0/22	
	・シフト勤務において、時間通りに出勤し、時間内に仕事を終えるように意識して取り組むことが出来た。	A: 7/22 B: 11/22 C: 4/22 D: 0/22	
	・自分一人の判断ではなく、必ず園長や主任、他の教師に報告・連絡を行い、取り組むことができた。	A: 18/22 B: 4/22 C: 0/22 D: 0/22	
	・分掌の担当の仕事を責任もって取り組むことが出来た。	A: 4/22 B: 9/22 C: 6/22 D: 2/22	
上記以外の職員	・園の方針や保育について理解した上で、職務に取り組んでいる。	A: 1/9 B: 7/9 C: 1/9 D: 0/9	
	・自分の職務にやりがいを感じ、責任を持って全うすることが出来た。	A: 7/9 B: 2/9 C: 0/9 D: 0/9	
	・計画性をもって、職務に取り組むことができた。	A: 3/9 B: 5/9 C: 1/9 D: 0/9	
	・仕事を効率的に行えるように意識して取り組むことが出来た。	A: 4/9 B: 4/9 C: 1/9 D: 0/9	
	・清潔で整った職場環境を保つ事を意識して過ごすことが出来た。	A: 5/9 B: 2/9 C: 1/9 D: 1/9	
	・計画に対して、定期的に振り返り、向上意識を持って取り組むことができた。	A: 2/9 B: 6/9 C: 1/9 D: 0/9	
	・問題発生時や必要事項は、園長に報告、連絡、相談し、改善の為に行動することが出来た。	A: 2/9 B: 7/9 C: 0/9 D: 0/9	
・疑問や提案等、自分から積極的に発信することが出来た。	A: 0/9 B: 5/9 C: 3/9 D: 1/9		

総合評価

今年度は、4つの課題目標に対して振り返った。職員一人ひとりの評価を見て、当園が目指す保育方針を職員全員が理解し、協力しながら保育や業務に取り組む事が出来たと感じる。更に、子ども一人ひとりへの理解を深め、子ども達の遊びがより充実するような保育を目指していく為に、日常的に教師間が情報交換を行い、会議頻度を見直し、職員一人ひとりの意識の向上を図っていきたい。

また、今年度は、保護者参加の行事に対して保護者より苦情があった。こども園となり、共働き家庭への配慮の必要性を感じているが、一方で1号の保護者への配慮も必要である。保護者の事情に寄り添い、必要に応じた配慮を行いながらも、園の方針として大切にしていきたい事を、保護者や地域の方々にしっかりと伝え、理解していただけるよう努力していきたい。これらの反省をふまえ、次年度は、以下の3点を課題として取り組んでいきたい。

テーマ	ことばに満たされて～ひびきあう
課題	1・子ども主体の保育に向けて～出会いと交わりの中で～ 2・職員の意識共有に向けて 3・保護者・地域との相互理解のために